

女の子二人と3Pを四日にわたり楽しんだタケル 街のはずれの空き地の小屋が待ち合わせ場所

「いいこと聞いたぞ！！！」

タケルはガッツポーズをしてジャンプした。

数年前から少しぷっくら出はじめたお腹。

運動不足も災（わざわ）いして、学生時代バスケットボールをしていた頃のような跳躍力は影を潜めてしまった。

青空に向けて飛んだ足は、数十センチだけ宙に浮き上がりなんと
もあっけなく地平へと着地した。

・・・・・・・・・・。

タケルが喜んだのはとっても貴重な情報を入手したからだ。

自宅から竹藪の細道を抜け川辺通りのアスファルトを歩く。

数キロ歩いた場所の近くに小さな神社がある。

その横の小さな空き地に小屋があって、そこが待ち合わせ場
所になっている。

男とやりたい女の子とセックスが出来る。

貴重な情報をくれたのは学生時代のサークルの先輩だった。

中高大学そして仕事と比較的珍しいのではないだろうか、生まれ育った実家のある街で一貫したタケル。大きな街であるためそういうことになったのだが、社会人になった今も学生時代の先輩なども同じ街に住んでいることが多く、頻繁に会ったりしていた。

その先輩は、別の友人から数年前からヤリチンになったとの噂を聞いていた。

突如、人には運命の転換というものは訪れるのだ。

きっかけ、タイミング。

結果、女がひたすら足しげく先輩の自宅へ通うようになったのだという。

今では夜な夜な女とやっていない日はないらしい。

そんな先輩だから知る人ぞ知る秘匿の情報も知っていて、その一端をタケルにも分けてくれたというわけだ。

女に飢えているというのが既に顔に書いてあるタケルに・・・・・・・・。

「そこへ行ったらどうなるんですか？」

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)